# 沙羅の樹文庫だより

NO. 200(23 年 8 月号)

花火

どんと　なった花火　だ
きれいだな
空いっぱいに
ひろがった
しだれやなぎがひろがった

どんと　なった何百赤い　星
一どに　かわって青い　星
もーど　かわって金の　星

どんと　なった花火　だ
きれいだな
空いっぱいに
ひろがった
しだれやなぎがひろがった
（後略）

井上赳　作詞（唱歌）

**本年も３密を避け予約制で開館しています**

2023 年
8 月 19 日(土)、20 日（日）
9 月 16 日(土)、17 日（日）
10 月 21 日(土)、22 日（日）変更
11 月 18 日(土)、19 日（日）
12 月 23 日(土)、24 日（日）変更
★12 月２４日午前はクリスマス会★
２４年・開館日第２週(日)と前日（土）
1 月 13 日(土)、14 日（日）

文庫・開館時間：土曜日 13：00～17:00
日曜日 10：00～15:00

**子どものための読み聞かせ・おはなし会**
文庫のある日曜日１０：３０～１１：００

**おはなし沙羅・おはなし勉強会**
文庫のある土曜日１０：３０～１２：３０


**沙羅の樹文庫**
〒413-0235 伊東市大室高原 7-122
☎0557-51-3737(090-6039-3782)

**沙羅の樹分館ゆるかの里子ども文庫**
〒413-0232　伊東市八幡野 924-1
☎0557-54-1910
開室日：水曜日 13:00～15:00
：日曜日 10:00～15:00


２３．７．３０早朝、ジョギングで（夫さん撮影）

百日紅?　夾竹桃?

文庫あれこれ◆今月の表紙は隅田川の花火です。最近は、スカイツリーあたりで打ち上げられるようですが、私が子どもの頃は、蔵前橋と両国の間あたりが打ち上げ場所でした。柳橋から浜町大橋にかけて、隅田川沿いに枡席が設けられ、近くのお料理屋さんから料理を運ばせ、酒盛りをしながらの見物も見ものでした。私は小学高学年から結婚するまで、日本橋浜町の隅田川近くに住んでいたので、家の屋上・物干し場からよく眺めることができました。懐かしい思い出です。今年は、数年ぶりの花火大会で、全国的にまた別の問題が発生していますね。◆数日前、昔の住居近くの人形町に友人と朗読（&ウクライナのバンドゥーラ）を聴きに行ってきました。水天宮から人形町の通りにかけて「せともの市」が開かれていました。◆先月文庫１週間後の伊豆高原駅でのおはなし会は残念ながら元子どもの方たちだけの参加となりましたが、楽しんでいただけたようでホッ。◆もう一つ読み聞かせを依頼された発達障害の子どもさんたちのグループ施設にも見学に行ってきました。みんなお家で作ってもらったお弁当を楽しそうに食べているところでした。どんなふうに一緒に愉しんでもらおうか、私たちも勉強しなければと思います。◆閉館まで１年。でもまだまだ新刊や興味深い本は許す限りは入れて読んでいただきたいと思っています。◆それにつけても、伊東市に素晴らしい図書館ができますよう、願わずにはいられません。◆今日は８月６日、新聞の隅々まで読んで、色々、考えさせられます。◆台風災害は大丈夫でしたか。では文庫で!!　（西村）

ムンステッドウッド

鮮やかで心にしみる色。暑さを飛ばす、ですね!!・

# 『人形の旅立ち』の地から ⑦　～長谷川摂子の創作原点～　林　良子

作品の舞台を歩き、作家の思いを感じ、想像するのが、私の趣味です。

『人形の旅立ち』の地からの寄稿は、2年ぶりに、長谷川摂子のふるさと、出雲市平田町に戻ります。生家があるのは木綿街道の宮ノ丁。

この辺り、情愛にみちた豊かなことばや自然に囲まれて遊んだ、長谷川摂子の幸せな子ども時代のことが、容易に想像できる場所の気配が漂っています。

長谷川摂子が毎日遊んだお宮の境内には、しめ縄が張られた大きな木があり、生家の裏には、運河のような深い川が流れています。この木や川、どの絵本に出て来るかおわかりですか。

まず、『めっきらもっきらどおんどん』（福音館書店）。めちゃくちゃな歌を歌ったかんたは、木のあなに吸い込まれて、おかしな 3 人、もんもんびゃっこ、しっかかもっかか、おたからまんちん、というおばけに会って遊びます。奇妙で愉快なおばけです。3人は神様かもしれません。

♪ちんぷく　まんぷく　あっぺらこの　きんぴらこ　じょんがら　ぴこたこ　めっきらもっきらどーんどん♪　歌いたくなります。

見つけました！大きなうろ！！これぞ、かんたが吸いこまれた木。

うろは、上の方にもあり、木の根元には、埴輪のような人形がおいてありました。

「人形の旅立ち」も、この木でおこったのではないでしょうか。

『おっきょちゃんとかっぱ』（福音館書店）の舞台はこの川！

**左の白い塀は生家の裏の塀です。どの家も、川は庭の続きのようです**

おっきょちゃんは、裏の川で遊んでいる時、赤い顔をしたきみょうな様子のガータロという子どもに、水底のかっぱのまつりに誘われ、川の中へ。降矢ななの描く赤い河童たちも魅力的です。

かつて、木綿の集積地だったこの地は、家々の裏に船着き場や駆け出しがあり、河童はきっと、そばにいたことでしょう。

隣県の境港市は水木しげるの妖怪の町、松江は小泉八雲の怪談の町、出雲は神様の地といわれます。旧暦十月を神無月（かんなづき）といいますが、出雲だけは神在月（かみありづき）と呼び、日本中の神様が集まる土地です。元祖、ファンタジーの地です。

松江と出雲を結ぶ一畑電車は、長谷川摂子が大好きだった祖父が創業者です。（『家郷のガラス絵』未来社）宍道湖岸を走る電車に、もんもんびゃっこやガータロが乗っている姿を、つい、期待してしまいます。

長谷川摂子は、享年 67 歳でした。存命なら、かんたやおっきょちゃんのような異界の人と親しく遊ぶ子どものお話や、古事記や風土記の世界を描いたファンタジー作品が、もっともっとできていたのではなかったかと惜しまれます。

**林さん、ありがとうございました。**
**長谷川摂子さんを訪ねて平田（出雲）に始まり、松江の町や八雲について触れることができ、再び、摂子さんの楽しい作品の生まれた場所に戻り、と楽しく淋しく（長谷川さん亡くなられて今年は１３回忌）思いは巡ります。**

**映画『RAILWAYS』は、主演中井貴一。一畑電車の運転手役です。沿線風景も楽しめますよ**

## 23. 8 月に入る大人の本

### フィクション

『かっかどるどるどぅ』（若竹千佐子著　河出書房新社 2023）ID19064
『図書館のお夜食』（原田ひ香著　ポプラ社 2023）ID19066
『獣の夜』（森絵都著　朝日新聞出版 2023）ID19065
『敵前の森で』（古処誠二著　双葉社 2023）ID19062
『不実在探偵の推理』（井上遥宇著　講談社 2023）ID19063
『チンギス記　17 天地』（北方謙三著　集英社 2023）ID19072　**＊この巻で完結!!**
『極楽征夷大将軍』（垣根涼介著 文藝春秋 2023）ID19073
『トラスト―絆/我が人生/追憶の記/未来』（エルナン・ディアズ著　井上里訳　早川書房 2023）ID19067
『終わりのない日々』（セバスチャン・バリー著　木原善彦訳　白水社 2023）ID19068
『アロハ、私のママたち』（イ・グミ著　李明玉訳　双葉社 2023）ID19069

### エッセイほか

『馬場あき子全歌集　作品』『馬場あき子全歌集解説・年譜・索引他』（馬場あき子著　角川書店 2023）ID19058　ID19059
『自選随筆集 野の果て』（志村ふくみ著　岩波書店 2023）ID19057
『掬われる声、語られる芸―小沢昭一と『ドキュメント日本の放浪芸』』（鈴木聖子著　春秋社 2023）ID19070
『幻のユキヒョウ―双子姉妹の標高 4000m 冒険記』（ユキヒョウ姉妹著　扶桑社 2023）ID19071　（木下こづえ・木下さとみ）
『いまだ人生を語らず』（安藤聰著　彩流社 2019）ID19074

### 文　庫

『世界でいちばん透きとおった物語』（杉井光著　新潮文庫 2023)ID19061
『頬に哀しみを刻め』（S・A・コスビー著　加賀山卓朗訳　ハーパー・コリンズ・ジャパン 2023）ID19060(文庫本)　＊リクエスト

### 新　書

『老いる意味、うつ、勇気、夢』（森村誠一著　中公新書 2023）ID19075**＊森村さん残念ながら亡くなりました。**

**コロナを経て、再び始まった子どもたちとの交流**

皆さんからいただきました・その２

**立川・大塚文庫**
**コロナ盛んな時期のみ、お母さんが本を借りにきたが、それ以外は親子でやってきて、自由に親子で読みきかせをやっています。**

## 23. 8 月に入る子どもの本

### 絵　本

『それよりこわい』（村中李衣作　近藤薫美子絵　佼成出版 2023）ID13933
『やぎさんのさんぽ』（juno さく　福音館書店 2023）ID13934
『はだしであるく』（村中李衣文　石川えりこ絵　あすなろ書房）ID13935
『ペンギンたんけんたい』（斎藤洋作　高畑純絵　講談社 2023）ID13936
『やさしいライオン 新装版』（やなせたかし作・絵　フレーベル館 2022）ID13943
『お日さまおそい　みんなもおそい』（フィリップ・C・ステッド文　エリン・E・ステッド絵　金原瑞人訳　カクイチ研究所 2023）ID13937
『ヨシ―3 万7千キロをおよいだウミガメのはなし』（リン・コックス文　リチャード・ジョーンズ絵　いわじょうよしひと訳　あすなろ書房 2023）ID13938
『世界で最後の花―絵のついた寓話』（ジェームズ・サーバー作　村上春樹訳　ポプラ社 2023）ID13940
『わたしがあかちゃんだったとき』（キャサリン・アンホールト作　角野栄子訳　文化出版局 1990）ID13945
『マリールイーズいえでする』（N・S・カールソンさく J.アルエゴ,A.デューイえ　星川奈津子やく　童話館出版 1996）ID13944
『赤い目のドラゴン』（アストリッド・リンドグレーン文　ヴィークランド絵　ヤンソン由実子訳　岩波書店 1988）ID13946
『こやたちのひとりごと』（谷川俊太郎文　中里和人写真　アリス館 2023）ID13939

### 読み物

『こんにちは、アンリくん』（エディス・ヴァシュロン作　ヴァージニア・カール文・絵　松井るり子訳　徳間書店 2023）ID13947
『ふしぎ草子』（富安陽子作　小学館 2023）ID13948
『図書館がくれた宝物』（ケイト・アルバス作　櫛田理絵訳　徳間書店 2023）ID13949
『最後の語り部』（ドナ・バーバ・ヒグェラ作　杉田七重訳　東京創元社 2023）ID13950

### ノンフィクション・参考書

『『くうき』が僕らを呑みこむ前に　脱サイレント・マジョリティー』（山田健太著　理論社 2023）ID13951
『ネット情報におぼれない学び方』（梅澤貴典著　岩波ジュニア新書 2023）ID13952

## 会員通信：転んでもハッピー・フランス紀行 下　　河中　玲子

・・・5 月 25 日～6 月 1 日が今回我々夫婦のパリ旅行最初の予定だった。・・・

<29 日>

我々がローランギャロスに入れなかったので、サビエル夫妻が、今日はセーヌ河畔の色々を案内してくれるという。ショパンの墓のあるペール・ラシェーズは広大でたくさんの有名人のお墓があり、一時間以上歩きまわり、ザビエルが色んな人に訊き訊き、ポーランドから来た男性のお陰でやっとショパンに会えた!

昼食は彼らがお気に入りのイスラエル料理のランチをシェアして頂いた。次に連れて行ってくれたのは、Deportat—onation Martyrs Memorial（ナチスの強制収容所に送られた人々の追悼碑）だ。街中にふと立ち止まって悼む施設だ。つくづくフランスは人権を大事にしているなあと思う。

そしてサンルイ島を横切り、左岸から再建真最中のノートルダム大聖堂を仰ぎ見る。19 年のあの衝撃の火災から世界が荘厳な寺院の再現を待ち望んでいる。

<30 日>

パリから南へ。朝 9 時過ぎに車で、すでに渋滞を縫って脱出。1 時間半くらいで着いたのは Vaux le Vicomte(ヴォー・ル・ヴィコント城)。17 世紀のバロック様式の城。ルイ 14 世の大蔵卿ニコラ･フーケによって建てられた、絢爛たる調度品のお城と広大な庭園。日本語解説のイヤフォンも頼んでくれた。

今回、すっかりお世話になったザビエルとヘレナ。15、6 年前、娘がハネムーンのプーケット(タイ)で知り合い、その後、偶々、日本に来た時、我々が出会し、伊豆で迎えて以来の交流。ザビエル夫妻から(我々のブロークンな英会話に耐えて)最大のおもてなしを受けて、感謝感謝の旅となった。

当初目的のテニス会場には入れなかったが、だからこそ体験できた収穫物があったと言えるかもしれない。詐欺まがいのテニスチケット代は今月全て返金された。この歳で社会勉強をした、と、思うことにしよう。　　（完）

## 徒然なるままに・・・　（さら）

🌹暑くて暑くて外に出ず、冷房効かせて読書読書?本当に珍しく、何冊も読みました。その中で、気になっていた共同通信記者 2 人による『ある行旅死亡人の物語』がやはり心を刺しました。それと、8月に入れる本たち。新潮文庫『世界でいちばん透きとおった話』。『図書館のお夜食』はスーッと読める本。『かっかどるどるどぅ』はデビュー作を読んでないので、わからないが、今の私にはもう一つ。🌹直木賞の『極楽征夷大将軍』は、尊氏像がひっくり返りました。また、歴史の頂点に立つ人々について考えさせられました。歴史小説は好きですが、NHK 大河ドラマは観ない私は、それぞれの時代の市井の人々の暮らしや生き方が滲み出る物語がいいなと思いました。🌹大竹しのぶが演じるというので読んでみた有吉佐和子の戯曲「ふるあめりかに袖はぬらさじ」は、嘘というテーマ?で胸が痛いくらい面白かった。有吉をもう１度再読しようかと。

**6 月下旬、沙羅の樹分館・ゆるかの里文庫に、八幡野小2年生2クラス 40 人が社会科見学にやってきました。**

**隣の小田公園で、動植物の観察する組と、文庫で本を読み合う組に分かれて。先生も読み手に早変わり!!　これからも、この訪問が続きますよう!!**

**分館のベランダ**